



サッカー王国雑学ノート

ブラジルからの熱い風

日下野良武著



熱い風 からの熱い風

目下野良武著

工業学院図書館
藏书章



バスボールマガジン社

ベースボール・マガジン社のサッカー書籍

ゲームで学ぶ

サッカートレーニング

小・ラックスバッチャー 著 加藤 久 監修 大森一伸 訳
●定価(本体1553円+税)

経験の少ない指導者、指導者のいない選手に欠かせないテキスト。楽しく学べる120のゲームを収録。

少年のための

サッカートレーニング

ベネデク・エンドレ 著 深谷志寿 訳 釜本邦茂 監修
●定価(本体1748円+税)

4歳から14歳までの少年たちのために段階的にトレーニング法と練習法を解説するハンガリーの指導書。

【新版】

チャナディのサッカー

アルパド・チャナディ 著 宮川 毅 訳 長沼 健 監修
●定価(本体5825円+税)

ハンガリーの名コーチA・チャナディ氏によるサッカー指導書の不朽の名著。フレイヤー、指導者必読。

ワールドサッカーの戦術

瀧井敏郎 著

●定価(本体2718円+税)

世界の一流プレーヤーのゾーンプレスを中心とする戦術をワールドカップなどの連続写真と図で詳解。

基本を学ぶために⑮

サ ッ カ

加藤 久 著

●定価(本体1748円+税)

サッカー選手に必要な技術・体力・戦力・メンタリティを身につけるために大切な基本を平易に解説。

サッカー上達講座

松 木 塾

松木安太郎 著

●定価(本体1262円+税)

どうすればサッカーの基本を習得できるのか? 松木塾長が、みなさんの悩みや疑問に答えてくれます。



体育・スポーツ総合出版

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ●最寄りの書店にご注文ください。お取り寄せできます

●宅配(着払い)をご希望のお客様は電話またはファックスで。(宅配料380円)

☎03(3238)0181 F A X 03(3238)0084 ベースボール・マガジン社 販売局 コレクト便係

ベースボール・マガジン社の
ホームページ

<http://www.bbm-japan.com>

インターネットで
オンライン・ショッピング

はじめに

サッカーファンの皆さん、こんにちは。わたしはブラジルのサンパウロ市に住んでいる日本人ジャーナリストです。若いときからこの国が好きで好きでたまりませんでした。一度は行ってみたいという望みが大学在学中にかない、ブラジルの魅力にぐんぐん引きずり込まれていったのです。ついに定住するに至りました。いま、両国の間を行ったり来たりの生活をしています。

日本のお年寄りの方々はブラジルと聞けばすぐ「移民」「コーヒー」「カーニバル」が頭に浮かぶでしょう。ところが若者は「サッカー」「セナ」「サンバ」だそうです。Ｊリーグが発足し、また、94年のワールドカップでブラジルが世界初の4回優勝を達成してからは、サッカー大国のイメージは揺るぎないものになりました。現在、Ｊリーグには約30人のブラジル人選手が在籍しています。スポーツを通じて、最も遠い国同士が仲良くなる——なんと素晴らしいことでしょう。

冒頭に述べましたように、わたしはジャーナリストです。常日頃、日本の皆さんに本当のブラジルを広く知ってもらおうと思いつけていました。これまでブラジル紹介の本を4冊出し、日本の地方新聞にも定期的にニュースを送稿しています。

日本におけるブラジル情報は貧弱そのもの、といっても過言ではありません。2万キロメートルほども離れたところにあるからでしょうか。「ブラジルは遠くて近い国」とよくいわれます。この本を読まれ、地球の反対側の情熱の国に温かいまなざしを向けていただければ幸いです。

著者

ブラジルからの熱い風 ● 目次

—— サッカー王国雑学ノート ——

はじめに

「キックオフ」の章

ブラジルの魅力

ブラジル人とは……

ワールドカップ

反対現象

カトリック

ブラジル料理

ポルトガル語

カルナバル

時差ボケ

国旗

0
5
2

0
4
9

0
4
4

0
4
0

0
3
6

0
3
2

0
2
7

0
2
0

0
1
6

0
1
2



「ドリブル」の章

増長

戦争

落雷

スター

応援

ニックネーム

パフォーマンス

ヴィオレンシア(暴力)

日本対ブラジル

コーヒー

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	9	9	8	8	7	7	6	6	5
8	4	0	5	1	6	2	7	2	8



「ヘディング」の章

新聞

サッカーくじ

女子サッカー

ビーチサッカー

Jリーグへの移籍

子供の夢はプロ選手

サッカー留学、研修

ビザ

男の涙

1
3
7

1
3
3

1
2
8

1
2
4

1
2
0

1
1
6

1
1
2

1
0
8

1
0
4



「ゴール」の章

頭髮

マラカナン・スタジアム

インフレ

麻薬

治安悪化

ペレの子供

ソクラテス

共同開催への声

テレビ生放送

おわりに

1
8
6

1
8
1

1
7
7

1
7
2

1
6
8

1
6
3

1
5
9

1
5
4

1
5
0

1
4
4



カバー、本文デザイン／井上硯
イラスト／荒井良二



ブラジルからの熱い風
——サッカー王国雑学ノート——





「キックオフ」の章



ブラジルの魅力

「サッカー王国ブラジルの魅力とは一体なんですか」とよく尋ねられる。わたしはためらわずにこう答えることにしている。

「一口にいえば、日本にないものがたくさんあることでしょね」

38歳のとき、わたしは女房と一人息子共々ブラジルに移住した。日本人男性の平均寿命は76歳だという。もし、それまで生存したとしたら38歳はちょうど半分だ。わたしの日本での暮らしはそれで終わったと考えると、いま54歳だからブラジルに生きて16年ということになる。その意味では二つの人生を体験しているといってもいい。ブラジルが日本と似通った国だったら移り住む気持もなかった。死ぬまでこの国に定住しようと決心したのは、いま述べたように日本にはないブラジルのよさに引かれたからである。

それでは具体的にどんなものがあるのか。日頃思うことを列記してみたい。

日本は画一的社会である。所得の極端な開きがなく、都市と地方の格差も少ない。民族的にもほぼ同一で、朝のラッシュアワーの国民の表情は規格サイズのロボットを見ているようだ。ブラジルは違う。プール付きの豪邸を所有する人がいるかと思えば、ダンボールや板切れ



でこしらえたバラックに住む人も多い。また、サンパウロやリオなどの大都会と地方都市の日常生活の貧富の差は歴然としている。

人種構成も種々雑多。プロのサッカー界だけを眺めても、いろんな顔つきの選手がいるから日本人はびっくりする。ただ、東洋人の風貌が見当たらないのはちと寂しい。ピンからキリまでが共存し、何もかもがごちゃ混ぜになっているのがブラジルである。そのアンバランスが面白い。型にはまった日本の社会はどうも息苦しい。

いい例が先輩・後輩のしきたりだ。特にスポーツの世界では著しい。われわれの大学生時代は1年生「奴隷」、2年生「中尉」、3年生「大将」、4年生「天皇陛下」といわれていた。いまではなつかしい思い出になっているが、現在もその名残はあるようだ。ブラジルではこんなことはない。どんなに若くても力、技のあるものがトップに立つ。年齢に関係なく堂々と意見も吐く。

ジーコが95年11月末、在籍したフラメンゴの成績不振は「働かない特権階級」の「ロマーリオ」にあると非難した。ロマーリオも負けてはいない。「ジーコはワールド・カップで優勝経験がなく、端的に言えば敗者さ」と一蹴。考えてみればジーコはロマーリオの大先輩に当たる。年が一回り以上も違う。齒に衣を着せないでモノをいえるのはいかにもブラジルらしい。



政治の世界でも要職に若手をどんどん起用するのがブラジルのやり方だ。企画力、能力があると認められたら政治家としては未経験の人でも大臣に抜擢される。連邦政府の初代スポーツ長官（大臣職）にジーコが就任したのは何よりの証明だ。現在はペレが務めている。

日本ではいろんなスポーツがプロ化を目指す傾向にある。ひとつ、"スポーツ大臣"の席を設けてみてはどうだろうか。ブラジルの方式を見習うとすると大臣にはスポーツ界のOBから選ばれる可能性が高い。初代の大臣は長嶋茂雄か、それとも千代の富士か。はたまた柔道の山下泰裕か、サッカーの釜本邦茂か。暗いニュースばかりで沈滞ムードが続く日本全国に、清風を吹き込む絶好のトピックになると思うが……。

ラテン・アメリカ人は概して陽気である。年中温暖な気候だから開けっぴろげで屈託がない。陰湿なところは感じない。初めて会った人でも、話し出して10分もすると旧知の間柄のように打ち解ける。それはユーモアにたけているからだろう。

特に人を笑わせるブラジル人のセンスは他国人をしのぐ。国民が注目するような出来事に引っかけたピアーダ（一口笑い話）がすぐ生まれる。きわどい話になっても、はじめじめしておらずサラリとしているのがいい。

このところ、めきめき頭角を現しているボタフォゴのキーパー、ワグネル。ヒヤツとするようなシュートを好プレーで何度か阻止したことがある。そこで小話できた。

